

| | |
|----------------|---|
| 2. 事業の目的と概要 | |
| (1) 上位目標 | 内戦により負傷しヨルダンに避難しているシリア難民の医療・リハビリテーション環境の改善 |
| (2) 事業の必要性(背景) | <p>(ア) 事業実施国における一般的な開発ニーズ</p> <p>シリアの内戦は収まる兆しが見えず、周辺諸国には 300 万人を超える難民が出ており、本事業実施予定国であるヨルダンにも、多くのシリア難民が居住している。その数は国連高等難民弁務官事務所 (UNHCR) によると、61 万 5500 人に及び (難民登録された数)、難民登録されていない、または登録を待っている人々の数を含めると 150 万人にのぼると言われている。そのうち 15 人に 1 人が、内戦により負傷している。国際 NGO、ハンディキャップ・インターナショナルの調査によれば、負傷した難民のうち約 55% が日常生活に不自由しており、約 33% が重度の障害者である。</p> <p>ヨルダンの難民は、初期医療サービスは無償で受けられる事になっている。しかし、手足の切断など高度な技術を要する手術は、現在、病院や個人に資金的な支援がなければ受けることができない。また、術後のリハビリテーションについては費用を個人が負担しなければならない。国際／ローカル NGO でリハビリテーションの提供を行っているところもあるが、その数は限られており、障害により移動が困難な人々にとっては、リハビリテーション施設に通う事も困難である。また、多くのリハビリテーション施設は男性の利用者が多く、女性にとっては文化／慣習的に男性と同じ場所でサービスを受ける事が難しいため、特に女性障害者が安心して利用できる施設とサービスの充実が早急に求められる。</p> <p>(イ) 外務省の国別援助方針等との関連</p> <p>外務省の国別援助方針では、シリアやイラク、パレスチナの紛争が激化する中で、緩衝国としてのヨルダンの安定維持のために支援をしていく重要性を強調しており、本事業のシリア難民支援はそれらに沿っている。</p> <p>(ウ) 申請事業内容 (事業地、事業内容) の背景</p> <p>国際赤十字委員会 (ICRC) によると、ヨルダンの登録されたシリア難民のうち 7.5% が内戦で傷害を負っているという。手足を失ったり下半身が麻痺した彼らは、内戦の直接的な被害者であるが、十分な支援を受けることが出来ない。費用の問題やサービスの不足が原因で、病院やリハビリテーション施設などへ行くことが出来ず、厳しい環境下で暮らしている。生活環境の悪化 (不潔、栄養失調、感染症、その他の脅威) が原因で、障害の重度化や別の障害を引き起こす可能性もある。</p> <p>紛争開始当初は、シリア難民自らが、負傷者の宿泊施設 (アコモデーションセンター) を立ち上げ、ヨルダン人がそれを支援していたが、長引く内戦で運営資金も十分に集まらなく</p> |

| | |
|----------|--|
| | <p>なり、ヨルダン社会も難民支援には疲弊してきている。</p> <p>以上のような状況から、支援が行き届いていない負傷者の医療、リハビリテーション環境を整えることは、急務である。</p> <p>一方、ヨルダンにはシリア難民の受け入れを制限しており、強制的に戻されるケースや、経済的な理由から難民自ら帰還するケースも増えている。シリア国内では、地雷、クラスター爆弾、不発弾などが大量に散逸しており、新たな被害を防ぐ危険回避教育も緊急性を要する。</p> <p>(エ) これまでの関連事業の成果・課題</p> <p>JIM-NET は、2013 年 10 月より、「希望の足」プロジェクトと称し、主にイルビッド県（シリアとの国境から近く、負傷した難民が多く暮らす）に暮らす負傷者が医療施設に通うための車両を運行する支援事業を実施し、10 ヶ月間で延べ約 400 人がこれを利用した。また、利用者の希望に応じて、親戚や友人の家を訪ねる際にも車両を運行し、移動が困難なことによって家に閉じこもりがちなたちが外出する機会を確保することにも協力して、彼らの精神的なケアの一翼も担ってきた。</p> <p>今後は、医療施設への送迎に加えて、これまで十分に組み立てていなかったリハビリテーションの質を高め、内戦により負傷し障害者となった人々がより早急に適切なケアを受けられる環境づくりをすすめていく必要がある。</p> <p>また、「地域に根差したリハビリテーション（CBR :Community Based Rehabilitation）」の知識、技術を障害者とその家族、PT、そして地域の人々が習得することによって、将来的には、障害者自身が機能障害の悪化を防ぎ、体力の維持ができて、さらに社会参加が可能になることが重要である。</p> |
| (3) 事業内容 | <p>シリア内戦に巻き込まれ負傷した被害者を、ヨルダン／シリアの NGO と協力しながら以下の事業を実施する。</p> <p>(1) 医療施設へのアクセス構築</p> <p>内戦で負傷したシリア難民が、医療施設やリハビリテーション施設等へアクセスできるように、週 5 日、車両を運行する。避難民の住居から、シリア難民が無料で治療を受けられる、マフラック県、イルビッド県、アンマン県の病院やリハビリテーション施設、義肢製作所までの移動をサポートすることで、毎月延べ人数で約 40 名（計 240 人）の受益者が見込まれる。</p> <p>また、事業終了後も治療やリハビリテーションが必要な人々が医療サービスにアクセスできるようになる事を目指し、関係団体や行政、国際機関、ドナーに対して啓発、政策提言等を行うとともに、関係団体／施設とのネットワークを通し、当団体だけでなく関係団体も協力した形でのアクセスの充実をはかる。事業終了時の状況に応じて、自己資金</p> |

での活動継続も考慮し、広報・宣伝活動を強化する。

(2) 女性のためのリハビリテーション関連施設のサービス充実

身体障害者が機能障害を軽減させ、さらに健康、体力を維持するためにはリハビリテーションが必要で、加えて運動が有効であるが、文化/慣習的な理由で、当該地域に女性障害者が利用できるリハビリテーション施設が限られている。

イルビッド県のアル・アマル・センター（現地提携団体）は、ヨルダン人を代表とするシリア人による NGO で、医師を含め 5 名の医療関係者が勤務するリハビリテーション施設であり、女性障害者へのサービスが必要な状況を見て、新たに女性専用のリハビリテーション・ルームを設置したい意向である。より多くの女性障害者がリハビリテーションを受け、トレーニングができるための環境づくりに協力する。

現地提携団体はすでに複数の理学療法士を自己資金で雇用しており、事業終了後も現地提携団体が自らの財源で女性に対するリハビリテーションの実施が継続してできるよう、調整を行っていく。

①機材の供与

供与する機材は以下の通り：

- a. 経皮的末梢神経電気刺激装置 (テンス)
- b. 超音波治療器
- c. パラフィン浴槽
- d. ホットパック
- e. 筋力トレーニング器具
- f. 歩行トレーニング器具

②女性理学療法士の派遣：

専従（週 5 日勤務）1 名 x 6 ヶ月。週に 1 日は女性障害者の家庭を訪問し、週に 4 日はセンターでリハビリテーションを行う予定。

(3) リハビリ技術・能力の向上

シリア難民の中には障害者に対し理学療法を施している理学療法士 (PT: Physiotherapist) がおり、機能回復訓練が実施されているが、障害者の日常生活の負担をより軽減させ、社会参加をすすめるために必要なレベルのものが提供されていないため、PT の知識と技術の向上が必要である。また、活動地域の障害者の社会参加促進には、ヨルダン人コミュニティとシリア難民コミュニティが地域で協力して CBR を実施することが重要であるので、障害者と障害者の家族、PT および地域コミュニティ向けに CBR 研修を実施する。

| | |
|----------|--|
| | <p>① シリア人およびヨルダン人のリハビリテーション専門家（PT¹、義肢装具士）の技術向上研修：中東地域で活動経験のある日本人 PT および作業療法士（OT: Occupational Therapist）を講師として派遣し、アンマン県で障害者のリハビリテーションを行っている NGO であるシャファック・シリア（現地提携団体）の PT および義肢装具士を対象とした技術向上研修を実施する。研修内容は、障害者の自立度を高めるために必要な理学療法/作業療法の知識および技術、リハビリテーション・プログラムの実施方法など。計 20～25 名を対象に 6 回実施予定。</p> <p>② 障害者および障害者の家族、PT、地域コミュニティ向けの CBR 研修：障害の悪化を防ぎ、さらに社会参加のために必要な訓練を家庭や地域でできるよう知識や技術を学び、さらに CBR を地域ですすめることができるようになるための研修を、マフラック県の NGO であるイスラミック・チャリティー・センター（現地提携団体）で実施する。シャファック・シリアの専門家が講師となり、25 名を対象に 6 回実施予定。</p> <p>（４）義肢製作費を支援（自己資金での活動） 義手・義足製作費を、義肢が必要な本事業の活動（１）（２）（３）の受益者（障害者）、イスラミック・チャリティー・センターやシャファック・シリアが支援する身体障害者、計 100 人を対象に支援する。</p> <p>（５）地雷・不発弾被害の予防教育 シリア難民が新たに地雷や不発弾の犠牲になることがないように、危険回避教育を実施する。シャファック・シリアの専門家が講師となる予定。ヨルダン地雷禁止キャンペーンの協力も受ける予定。</p> <p>①地雷や不発弾について知り、その危険回避の方法を伝えるパンフレットを作成、配布する。（2000 人対象）。</p> <p>②危険回避セミナーを、ヨルダン北部の難民が多い地域にあるイスラミック・チャリティー・センターやその他シリア難民が集まる施設で実施する。3 回×50 人＝150 人を対象。</p> |
| （４）持続発展性 | <p>活動を通して、紛争に巻き込まれ障害者となった人々が、治療やリハビリテーションを受けられるためのシステムの土台をつくる。特に、病院、リハビリテーション施設、また同分野で活動する国際／ローカル NGO と活動内容を共有、調整していくことで、事業終了後も上記システムが機能していくためのネットワークを作る。</p> |

¹ シリアには作業療法士の養成校がないため作業療法士が存在しない。そのため、研修対象者に OT はおらず PT となる。

| | |
|----------------------------|---|
| | <p>リハビリテーション機材に関しては、リハビリテーション施設が自分たちで管理していくために、医師と PT が中心となって、管理マニュアルを作成する。</p> <p>また、障害者本人やその家族および地域の人々が CBR を理解し、助け合って障害者の社会参加を可能にするための能力を高め、事業終了後も CBR を自分たちで続ける。</p> |
| <p>(5) 期待される成果と成果を測る指標</p> | <p>(1) 医療施設へのアクセス構築</p> <p>期待される成果：内戦により負傷した難民が、住居から医療施設やリハビリテーション施設などへ通うことができ、適切なケアを受けることができる。</p> <p>指標：車両を利用した延べ数：計 240 名 聞き取りアンケート調査（サンプリング）：利用者の 80%以上がサービスに満足する 関係団体／施設との連携：関係団体／施設が同様または補足的なサービスを計画、実施する 事業終了後につながる自己資金状況：終了後半年間活動を継続させるための自己資金獲得</p> <p>(2) 女性のためのリハビリテーション関連施設のサービス充実</p> <p>期待される成果：女性障害者がリハビリテーションを受け、運動ができることで、痛みを軽減し健康が維持される。障害の重度化や、廃用症候群などの二次障害を防ぐ。</p> <p>指標：延べ利用者数：計 600 名 聞き取りアンケート調査（サンプリング）：利用者の 80%以上がサービスに満足する</p> <p>(3) リハビリテーション技術・能力の向上</p> <p>期待される効果：リハビリテーション専門家の技術向上研修、障害者とその家族、コミュニティメンバーに対し CBR 研修を実施することで、上記対象者のリハビリテーション技術・能力が向上する。</p> <p>指標：①のリハビリテーション専門家の技術向上研修では、20 人の参加者が正しい知識と技術を得る。 ②の障害者・家族、PT、コミュニティメンバー向けの CBR 研修では、25 人の参加者が実施可能な行動計画を作成する。</p> <p>(4) 義肢製作費を支援(自己資金での活動)</p> <p>期待される効果：義肢を得ることで、一部の機能障害を補い自立した生活を送る準備ができる。</p> <p>指標：義肢の配布数（100 義肢） 聞き取りアンケート調査（サンプリング）：義肢を得た受益者の 100%が、日常生活における障害による困難を軽減できるようになる</p> <p>(5) 地雷・不発弾被害の予防教育</p> |

(様式1)

| | |
|--|---|
| | <p>期待される効果：シリアに帰還した際に被害にあわないよう地雷・不発弾等の知識を得る。また、得た知識を他の人々に伝えられる。</p> <p>評価指数：パンフレット配布数：2000部 セミナーの参加人数：150人 セミナー後の簡易テスト（サンプリング）：8割以上の参加者が、80%以上の正しい知識を得る</p> |
|--|---|

(ここでページを区切ってください)